

浄化槽工事検査報告書

（建設省告示区分第2～第12の各号及び51人槽以上の告示区分第13のもの）

検査項目	チェック項目	該当装置の有無	結果	特記事項
1. 基礎及び躯体	1. 基礎工事は適切に行われたか。 栗石、捨てコン 2. 底部コンクリートの配筋、厚さ mm 3. 周壁の配筋、厚さ mm 4. 鉄筋コンクリート構造の場合防水加工が施されているか。 5. 埋戻し、水締め、つき固め、及び槽内清掃等の整地清掃は適切に行われたか。 6. FRP浄化槽では浮上防止措置が講じられているか。			
2. 流入管及び放流管渠	1. 勾配は適切であるか。 2. 汚物や汚泥の滞留はないか。 3. 管又は管と合流升等の継ぎ目から漏水又は地下水の流入はないか。 4. マンホール上部及び点検口内の嵩上げ継ぎ目部分から雨水等の流入はないか。 5. 雨水、工場排水等の浄化槽の機能に障害をもたらす管渠の接続はないか。 6. 升の位置および種類は適切か。 7. 生活排水が全て接続されているか。			
3. 設計図書の確認	1. 設計変更が行われていないか。 2. 槽の形状、寸法は設計図書どおり施工されているか。 3. 機械装置などの仕様書は、設計図書どおりか。			
4. 一般構造などの外観検査	1. 型式、メーカー名、人槽の表示があるか。 2. 水平に据え付けられているか。 3. 亀裂、破損などはないか。 4. かさ上げのある場合、維持管理に支障はないか。 5. 通気排気の開口部は適切か。 6. 槽本体に満水して24時間以上漏水しないことが確かめられたか。 7. 維持管理が容易にできる構造となっているか。 8. 各種配管は堅固に取り付けられているか。 9. 機械装置などは堅固に据え付けられているか。 10. 各種配管および槽内の金属材料は、防錆対策が講じられているか。 11. 放流管底と放流先水面は適切な落差があるか。 12. 周辺に対し、騒音などの影響はないか。 13. マンホールの位置、口径、及び材質は適当であるか。 14. 清掃用の水道栓が浄化槽の付近に設置されているか。			
5. 沈殿分離槽	1. 槽の形状、寸法はよいか。 2. 流入管および流出管の開口部の位置は、規定の深さにあるか。また、その管の取付け状態はよいか。 3. 流入管底と水面との落差はあるか。 4. 流入管、流出管、バッフルなどの上部にマンホール点検口が設けてあるか。			
6. 嫌気濾床槽	1. 槽の形状、寸法はよいか。 2. 濾材の充填率・充填状態はよいか。 3. 流入管および流出管の開口部の位置は適切か。また、その管の取付け状態はよいか。 4. 清掃口の位置は適切か。 5. 汚泥移送装置の位置は適切か。 6. 汚泥移送装置の稼働状況			
7. スクリーン流入装置	1. 導入管底とスクリーン流路底面との落差はあるか。 2. 各種スクリーンの目幅間隔は所定寸法であるか。 3. スクリーンの傾斜角は適切か。 4. スクリーンかすの水きり装置およびスクリーンかすを収納する容器の容量は適当であるか。 5. 導水路（バイパス）のゲート板は設けられているか。 6. 下記の機械装置の型式、能力は設計仕様書どおりか。 (1) 破碎装置 (2) 自動荒目スクリーン (3) 自動細目スクリーン (4) 自動微細目スクリーン (5) 排砂装置 7. 沈砂槽、ばっ気沈砂槽、ばっ気型スクリーンの構造容量は適切か。また、排砂が容易に行える構造となっているか。 8. ばっ気沈砂装置、ばっ気型スクリーンの散気管などの取付け位置は適切か。また、空気調整バルブが設けられているか。			

要領様式第8号（第4条第1項関係） その2

検査項目	チェック項目	該当装置の有無	結果	特記事項
8. 原水ポンプ槽	1. 槽の形状、寸法はよい。か。 2. ポンプの型式、能力、台数（2台以上）などは仕様書どおり。か。 3. ポンプの運転状態はよい。か。 4. ポンプは容易に保守点検できるよう設置されている。か。 5. 液面スイッチの設定位置は適切。か。また、作動状態はよい。か。 6. 満水警報器は設置されている。か。また、設置場所は適切。か。 7. 異常満水時の対策は適切。か。			
9. 流量調整槽，計量装置	1. 槽の形状、寸法はよい。か。 2. ポンプの型式、能力、台数は設計仕様書どおり。か。 3. ポンプの運転状況はよい。か。 4. ポンプは容易に保守点検ができる。か。 5. ポンプの液面スイッチ設定の作動状況はよい。か。 (1) 最低水位（ポンプ停止レベル）と散気管の位置関係はよい。か。 (2) ポンプ停止、起動および満水警報などの液面スイッチの設定レベルは適切。か。 6. 満水警報器は設置されている。か。また、設置場所は適切。か。 7. 計量調整装置の構造、形状および機能について (1) 計量ぜきの構造はよい。か。（各せきの構造は越流方式である。か） (2) 移流量の計測および調整が容易にできる構造となっている。か。 8. 攪拌装置と運転状況について (1) 散気攪拌方式の場合、流量調整槽用送風機は設計仕様書どおり。か。 (2) 空気配管に空気量、圧力などの計測装置がある。か。また、空気調整バルブが設けられてある。か。 9. 異常満水時、次の槽へのオーバーフロー対策は適切。か。			
10. 回転板接触槽	1. 槽の形状、寸法はよい。か。 2. 回転板の形状・寸法および板相互の間隔寸法はよい。か。 3. 回転板の材料は仕様書どおり。か。 4. 回転板が接触槽の汚水に、規定以上浸漬している。か。 5. 回転板の回転速度（円周速度）は規定速度以下。か。 6. 槽の壁、底部と回転板の間隔（隙間寸法）は規定どおり。か。 7. 槽には上屋などを設け、通気ができる構造となっている。か。 8. 回転板の駆動装置について (1) 駆動装置は仕様書どおり。か。 (2) 駆動装置は堅固に取り付けられている。か。 (3) 駆動装置の運転状況はよい。か。 9. 回転板の回転状態は円滑。か。			
11. 接触ばっ気槽	1. 槽の形状、寸法はよい。か。 2. 接触材の充填率は規定値以上ある。か。 3. 接触材およびその支持材の取付け状態はよい。か。 4. 各槽は、はく離汚泥を引抜き移送できる構造となっている。か。 5. ばっ気攪拌状態はよい。か。 6. 消泡装置について (1) 消泡ノズルの配置、取付け高さなどは適切。か。 (2) 消泡状態はよい。か。			
12. ばっ気槽	1. 槽の形状、寸法はよい。か。 2. ばっ気装置について (1) 散気管または機械攪拌機は保守点検が容易にできる構造となっている。か。 (2) 散気配管に空気調整バルブが各系統ごとにある。か。また、空気量計測装置がある。か。 (3) 散気管または機械攪拌機の見かけ状態はよい。か。 (4) 機械攪拌式は、ばっ気の調整ができる装置などがある。か。 (5) ばっ気、攪拌状態はよい。か。 3. 消泡装置について (1) 消泡ノズルの配置、取付け高さなどは適切。か。 (2) 消泡状態はよい。か。 4. 散気装置の空気にかし配管口は、適切な水面下にある。か。			

要領様式第8号（第4条第1項関係） その3

検査項目	チェック項目	該当装置の有無	結果	特記事項
1 3. 散水濾床	1. 槽の形状、寸法はよい。か。 2. 固定ノズルまたは回転散水機は仕様書どおりか。また、散水状態はよい。か。 3. 散水量は適切。か。 4. 濾材受けと槽底部の間隔および底部勾配は適切。か。 5. 濾材の受け材の取付け状態はよい。か。 6. 濾材の材質、径などは仕様書どおりか。 7. ポンプますの形状寸法はよい。か。 8. 散水ポンプおよび分水装置の運転および作動状況はよい。か。			
1 4. 脱室槽	1. 槽の形状、寸法はよい。か。 2. 攪拌装置は保守点検が容易に行える構造となっている。か。 3. 沈殿槽からの汚泥の返送量の計測調整が容易に行える。か。 4. メタノールなどの注入設備は量の調整が容易に行える構造となっている。か。			
1 5. 硝化槽	1. 槽の形状、寸法はよい。か。 2. ばっ気装置について (1) 散気管または機械攪拌機は保守、点検が容易にできる構造となっている。か。 (2) 散気配管に空気調整バルブが各系統ごとにある。か。また、空気量計測装置がある。か。 (3) 散気管または機械攪拌機の取付け状態はよい。か。 (4) 機械攪拌式は、ばっ気の調整ができる装置などがある。か。 (5) ばっ気、攪拌状態はよい。か。 3. 消泡装置について (1) 消泡ノズルの配置、取付け高さなどは適切。か。 (2) 消泡状態はよい。か。 4. 散気装置の空気にかし配管口は適切な水面下にある。か。 5. 脱室槽への汚水の返送量の計測調整が容易に行える構造となっている。か。 6. pH計の設置位置は適切。か。pHを自動的に調整できる構造となっている。か。 7. DO計の設置位置は適切。か。槽内のDOを計測・記録できる構造となっている。か。			
1 6. 沈殿槽	1. 槽の形状、寸法はよい。か。 2. 整流装置の形状、寸法および取付け状態はよい。か。 3. 汚泡かき寄せ機の型式能力は設計仕様書どおりか。また、運転状況はよい。か。 4. 越流ぜきの構造、形状および寸法はよい。か。 (1) 越流ぜきは堅固に取り付けられている。か。 (2) 均等流出ができる。か。（レベル調整されているか） 5. 阻流板（バフフル）の形状、寸法はよい。か。また、バフフルは堅固に取り付けられている。か。 6. 汚泥返送装置の型式能力などは設計仕様書どおりか。 (1) エアリフトポンプの空気管には空気調整バルブがある。か。 (2) エアリフトポンプのヘッドに空気抜きが設けられている。か。 7. 汚泥返送装置の運転状況はよい。か。 8. 汚泥返送装置の構造、形状および機能はよい。か。 (1) 計量ぜきの構造はよい。か。各せきの構造は越流方式である。か。 (2) 計量ボックスの形状、寸法はよい。か。 (3) 汚泥の計量および調整ができる構造となっている。か。			
1 7. 凝集設備	1. 槽の形状、寸法はよい。か。 2. 攪拌装置は保守点検が容易に行える構造となっている。か。 3. 薬剤の注入位置は適切。か。薬品（凝集用、pH調整用）注入量の計測調整は容易に行える構造となっている。か。 4. 薬液タンクの容量は10日分以上ある。か。			
1 8. 濾過設備	1. 槽の形状、寸法はよい。か。 2. ポンプの型式、能力は設計仕様書どおりか。 3. 濾材の充填は設計仕様書どおりか。 4. 自動的に逆洗が行える構造となっている。か。 5. 差圧などの検知ができる構造となっている。か。 6. 濾材の交換が容易に行える構造となっている。か。			
1 9. 活性炭吸着設備	1. 槽の形状、寸法はよい。か。 2. ポンプの型式、能力は設計仕様書どおりか。 3. 活性炭の充填率は設計仕様書どおりか。 4. 自動的に逆洗が行える構造となっている。か。 5. 差圧などの検知ができる構造となっている。か。 6. 活性炭の交換が容易に行える構造となっている。か。			

要領様式第8号（第4条第1項関係） その4

検査項目	チェック項目	該当装置の有無	結果	特記事項
20. 消泡設備	1. 消泡水貯留タンクの形状、寸法はよいのか。 2. ポンプの型式、能力は設計仕様書どおりか。 3. ポンプの運転状態はよいのか。 4. ポンプ・ストレーナーがあるか。			
21. 消毒槽	1. 槽の形状、寸法はよいのか。 2. 消毒装置（消毒筒など）の設置位置は適切か。また、混和状態はよいのか。			
22. 放流ポンプ槽	1. 槽の形状、寸法はよいのか。 2. ポンプの型式、能力は設計仕様書どおりか。また運転状態はよいのか。 3. ポンプは容易に保守点検できるよう設置されているか。 4. 液面スイッチの設定は適切か。 5. 予備原動機の型式、能力は設計仕様書どおりか。また、運転状態はよいのか。			
23. 汚泥濃縮貯留槽、汚泥濃縮槽、汚泥貯留槽	1. 槽の形状、寸法はよいのか。 2. 脱離液返送装置などがあるか。また、その取付け状態はよいのか。（汚泥濃縮貯留槽、汚泥濃縮槽） 3. 槽は、臭気が発散しない構造となっているか。 4. 汚泥の引抜きおよび搬出が容易な構造となっているか。			
24. 機械室設備など	1. 機械室の広さは、機械装置、動力操作盤などの保守・管理上支障はないか。 2. 機械室は防音、防湿などの構造となっているか。 3. 処理方式、能力、フローシート、設置年月、施工業者名などを明記した耐食性の表示板を掲示しているか。 4. 送風機の型式、能力、台数は設計仕様書どおりか。また、運転状態はよいのか。 5. 送風機の据付け状態はよいのか。 6. 送風機には風量計、圧力計の計測装置があるか。 7. 電動機、ポンプ操作盤などには接地工事がされているか。 8. 電動ケーブル及び各槽からのセンサーケーブルの盤入線部にはコーキングなどで適切な防湿対策が施されているか。 9. ポンプ操作盤は設計仕様書どおりか。 （1）漏電ブレーカーが設置されているか。また、作動状態はよいのか。 （2）流量調整槽のポンプ稼働時間を積算できる計器が設置されているか。 （3）満水警報装置が設置されているか。また、作動状態はよいのか。 10. 予備電源装置は設計仕様書どおりか。また、運転状況はよいのか。			
25. 付帯設備	1. 換気設備は設計仕様書どおりか。また、運転状態はよいのか。 2. 照明設備は設置されているか。また、保守、点検上支障ない照度を有しているか。			
26. 槽内の配管	1. 各種配管は設計仕様書（材質、口径など）どおりか。 2. 空気配管の空気漏洩試験を行ったか。また、その結果はどうであったか。			

放流先の経路と状況
設置者に対する取扱説明

検査月日及び検査項目番号

月 日	
月 日	
月 日	

浄化槽設備士氏名	設備士免状交付番号
----------	-----------